

NOTICE サポセンからのお知らせ

● 市民活動を「知る」時間 ハジマルフクラムプロジェクト

日時:2月28日(日)午前10時半～12時半

内容:仙台で活動している2つの団体を招き、活動をはじめたきっかけから現在にいたるまでのお話を聞くトークイベント。お気軽にご参加ください。

ゲスト:NPO法人 ボランティアインフォ 馬場隆介さん  
NPO法人 子どもグリーンサポートステーション 相澤治さん  
場所:仙台市市民活動サポートセンター 研修室5

対象:市民活動やボランティアなどに興味のある個人やグループ。  
参加費:500円(ワンドリンク)  
申込み・問い合わせ:仙台市市民活動サポートセンター  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp  
メールでお申込みの方は、件名を「知る時間」として、氏名・住所・電話番号をお知らせください。

● 地域メディア公開編集会議 人と人、人と街をつなぎ、ローカルから新たな出会いを生み出す

日時:3月5日(土)午後2時～午後4時45分

内容:ブログ、フェイスブック、ツイッター、ミニコミ誌、壁新聞…。誰もが自由に、しかも簡単に情報発信者になれる時代です。地域活性化、地方創生、地域イノベーション…。地方に目が向けられ、ローカルな視点からの情報発信が盛んになり、地域から発信することの可能性は無限大です。「島根がおもしろい!」と、島根を拠点に活動しているローカルジャーナリストの田中輝美さんをお迎えします。地域に暮らすからこその情報発信のカタチと一緒に考えてみましょう。

ゲスト:田中輝美さん(ローカルジャーナリスト)  
島根県浜田市生まれ。山陰中央新報社に入社し、記者をしながら地域で働く喜びに目覚める。琉球新報社との合同企画「環りの海一竹島と尖閣」で2013年日本新聞協会賞受賞。有志でブログ「シマプロ!」を運営し、100人規模のイベントを開催。2014年秋独立。2015年8月にクラウドファンディングで資金を募り、著書「地域ではたらく「風の人」という新しい選択」を出版した。

場所:仙台市市民活動サポートセンター 市民活動シアター  
定員:50名  
参加費:500円(ワンドリンク)  
対象:地域活動やまちづくりに関心のある方、情報発信に興味のある方、地域メディアに関心のある方など  
申込み・問い合わせ:仙台市市民活動サポートセンター  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp  
メールでお申込みの方は、件名を「地域メディア」として、氏名・年代・住所・電話番号をお知らせください。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの拠点施設です。

このようなご相談おまかせください。

- 市民活動の立ち上げ、法人格の取得、団体運営、組織運営などの相談
- 協働についての相談
- 復興支援活動、シニア活動・セカンドライフなどの相談

今月の休館日:2月10日(水)・2月24日(水)

今月の表紙

仙台市青葉区宮町のシンボル、国指定重要文化財仙台東照宮の前。取材・執筆を担当した学生記者と熱く語りながらも、「普段は取材をする側なので…」と照れながら取材に臨む水沼さんです。038PRESSは、2015年10月にvol.18を発行。次号も楽しみです。


●情報ボランティア@仙台  
<https://kacco.kahoku.co.jp/author/volunteer16>

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00 / 休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

HP <http://www.sapo-sen.jp>  
Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>  
Twitter @sensapo

「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっと読者アンケートにご協力をお願いします。サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

# ぱれっと 2

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2016 No.198

「ぱれっと」には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月のワクワクビト

発信が地域の力に  
書くべきこと、街にたくさん

お!宮町地域情報編集局 市民記者  
水沼幸三さん  
KOUZOU MIZUNUMA

仙台東照宮の門前町、青葉区宮町地区。地域情報誌「038(おみや)プレス」は、宮町の歴史を掘り起こし、地元の新たな魅力を発信するフリーペーパーです。取材に奔走する水沼幸三さん(34)は、「街には書くべき話題やスポットが山ほどある」と目を輝かせます。新聞とテレビで8年間記者として働き、いまは名取市職員。仕事は変わっても、「書きたい」という情熱は衰えを知りません。

2014年夏、サポセン主催の市民ライター講座で、038プレスの存在を知りました。「巷に書き手がこれほどいることに驚きと感動を覚えました」。迷わず書き手の一員に加わりました。市民記者ならではの「読み手と書き手の近さ」を楽しみながら、地域メディアの魅力を毎号体感しています。物事を正確にとらえ、分かりやすく伝えられる市民の広がり、そのまま「地域の底力、有事の際の備えになる」とも考えます。地元情報が豊かに行き交う先に、地域の明日は開かれる…。市民が握るペンの力を自ら追求します。

取材・文:小林直秋(東北大学4年)  
高橋直道(東北大学2年)

特集

子どもたちと育む、

みんなで地域を思うまちづくり

「広瀬川とサケ」

お!宮町地域情報編集局

連絡先 〒980-0012 仙台市青葉区錦町2丁目4-48(東六コミュニティ・センター内)  
TEL 090-7932-5021(千葉) Mail [ohmiyamachi@gmail.com](mailto:ohmiyamachi@gmail.com) HP <http://038press.jimdo.com>  
2011年3月から年間4回、「038PRESS(おみやプレス)」を発行しています。A4版、全8ページのオールカラー。取材・編集を担う編集委員は水沼さんら地区内外の市民有志約30人で構成され、毎号10人ほどが本業の合間を縫って参加しています。取り上げる話題は、地域のイベントや地元飲食店の情報など。宮町地区の全7500世帯に無料配布するほか、地区の飲食店などにも設置し、地元情報の発信と共有、地域のつながりづくりに役立っています。



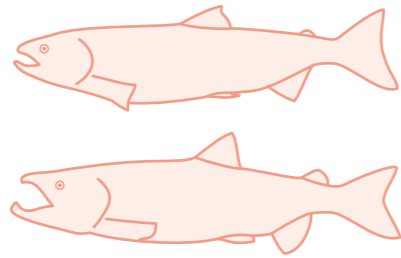


# 特集 子どもたちと育む、みんなで地域を思うまちづくり「広瀬川とサケ」

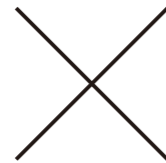
社の都仙台の豊かな自然を象徴する広瀬川に、秋になるとサケが遡上することを知っていますか。「えっ、広瀬川にサケ？」と思った人も多いことでしょう。広瀬川で育まれるサケの一生を通じて子どもたちに学びの機会を作る、荒町児童館と市民活動団体カワラバンの取り組みをご紹介します。



仙台市荒町児童館  
ほりえ みずき  
堀江瑞希さん



カワラバン  
すがわら まさのり  
菅原正徳さん



## 地域の魅力発見！サケが遡上する広瀬川

荒町児童館は、豊かな自然を育む広瀬川が近くに流れる、荒町商店街の中にあります。開設は2010年。荒町市民センターに併設されていることもあり、子どもだけでなく多くの地域住民で賑わいます。冬の間のシンボルは、施設の入口にある水槽。サケの卵が稚魚に成長するまでを観察することができます。

児童館では毎月、子どもと地域住民と一緒に参加できる企画を開催。児童館職員の堀江瑞希さんは、「少子化や核家族化が進む中、地域住民同士のつながりが少なくなり、子どもを取り巻く環境が、家庭と学校だけに片寄ってしまっている」と、子どもたちと地域住民が触れ合う企画に力を入れる理由を話します。

中でも「広瀬川とサケ」という取り組みは、荒町地区以外にも参加者が集う人気企画です。11月の遡上見学に始まり、冬の間は水槽で卵の飼育と観察。2月には、成長した稚魚を広瀬川へと放流します。全4回の学習を通して、自然環境の大切さ、生きものの命の尊さを考え学ぶことができます。この企画を共に運営するのは、市民活動団体カワラバンです。代表の菅原正徳さ

んは、川や地域の魅力を伝えるため、市民や教育機関向けに環境学習支援を行っています。

## 関わることで広がる地域への思い

「環境保全活動という、敷居が高くなりがちです」と菅原さん。地域のハブである児童館との協働により、「自然環境について地域の方々や直接対話する機会が増えた」と活動の広がりを実感しています。堀江さんは、「カワラバンと活動を重ねるごとに、児童館職員の知識や経験が深まり、子どもたちに伝えられることが豊富になりました」と内部の変化を振り返ります。

毎年、児童館にサケの卵を提供してくれるのは、広瀬名取川漁協です。また、大きなイベントになれば、広瀬川に関わる様々な市民活動団体や町内会もサポートに駆けつけます。サケを介して、地域の子どもも大人も一緒に活動し、互いのつながりを深めています。

また、子どもたちが体験学習を通じて得た知識を大人たちに誇らしげに話す姿、卵を気づかい大切に扱おうとする姿勢も、この

## 図解



企画の大きな成果です。児童館とカワラバンは、「地域みんなで、地域資源や自然環境を守っていくための素地ができつつのあるのでは」と期待を抱いています。

## 子どもたちのふるさとづくり

堀江さんは、「今後も、子どもたちと地域の方々を橋渡しする機会をつくりたい」と、意欲を燃やします。菅原さんは、「サケが遡上する川の環境を守るの、地域の人たちです」と、地域に目を向ける人材が育つことの重要性を強調します。

「広瀬川とサケ」という企画は、自分たちが生まれ育った地域を慈しみ、愛する心を育みます。まちの魅力を知った子どもたちが将来、「自分たちの手で自分たちのふるさとを良くしたい」と、様々な取り組みをはじめられるかもしれません。地域づくりは人づくり。豊かな地域を目指し、種まきは続きます。

(取材・文 松田照子)

- 連絡先
- 荒町児童館 〒984-0073 仙台市若林区荒町86-2  
TEL / FAX 022-266-6023
  - カワラバン 〒981-0952 仙台市青葉区中山6丁目1-12-101  
TEL 090-9745-3571 / FAX 022-739-8814  
Mail sugawara@kawara-ban.org HP <http://www.kawara-ban.org>

## 子どもたちのための“児童館とNPOの協働事業” 「NPO どんどこプロジェクト」

地域の課題に主体的に取り組んできたNPOと、子どもの拠点として活動してきた児童館との連携によって、子どもたちが地域の課題に触れる機会を提供し、子どもたちと地域が共に気付き、学びあう環境を創出する事業への助成プログラムです。主催は、特定非営利活動法人日本NPOセンター。地域に根づいた児童館とNPOがタッグを組んで、新たな価値を創造すること、また様々な非営利組織間の協働が生まれることを目指し、全国の協働による事業を支援しています。

- 特定非営利活動法人日本NPOセンター  
〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目2-1 新大手町ビル245  
TEL 03-3510-0855 / FAX 03-3510-0856  
「NPO どんどこプロジェクト」 <http://www.npo-dondoko.net>
- 協力 一般財団法人 児童健全育成推進財団
- 協賛 一般財団法人 住友生命福祉文化財団

## ビッグイシューの挑戦

ビッグイシューは、イギリス生まれの雑誌です。ホームレス状態の人たちが販売し、その差益を得ることで労働意欲を再起させ、自立への足がかりを得てもらおうというもの。本著は、その日本版を全国で事業展開するまでに育てた著者自身の活動を紹介。取り組み社会課題の背景もよくわかります。今までの施すだけの支援ではなく、ビジネスを共にすることで課題解決を図るという、新たな視点に気付かされる一冊です。



## 絵本バンク

### 絵本の交換会—とっておきの絵本と出会う

絵本バンクは、「人から人に、大切な絵本を読みついで欲しい」という願いで、2008年から始まった市民と企業、地域が連携して行う活動です。主な活動は交換会の開催。家庭で読まれなくなって眠っている絵本と、絵本バンクが所蔵する絵本約500冊の中から好きな絵本を、物々交換できます。



▲絵本バンクの交換会の様子

●2月の交換会 日時:2月16日(火)午前11時~午後2時 場所:セルパ4Fコミュニティルーム  
<http://www.ehonbank.com> 連絡先 eb@ehonbank.com

## 「市民活動お役立ち情報」は、市民活動の便利帳

市民活動に役立つ情報を、A4用紙1枚に「ギュッ」とつめこんだ「市民活動お役立ち情報」。「NPOって何だろう」という基本的な知識から、「チラシ・ポスターの置く場所」、「チラシを作るコツ」の広報に関すること、そのほか「規約の作り方」、「助成金のいろは」など、11のテーマごとに団体を運営する上で知りたい情報がまとまっています。団体に必要な情報を選んでご利用ください。サポセンの1F情報サロンと印刷室、3F相談・つながるサロン、5F交流サロンに配架してあります。また、サポセンのホームページからPDF版をダウンロードすることもできます。



▲掲載情報は随時更新しています